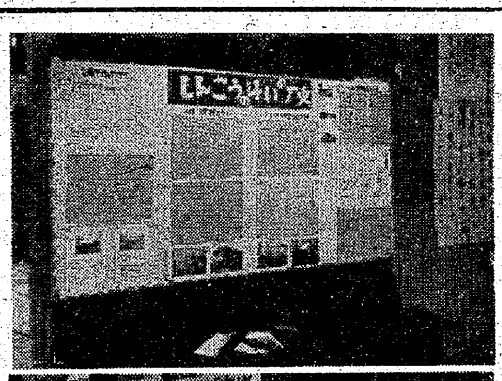
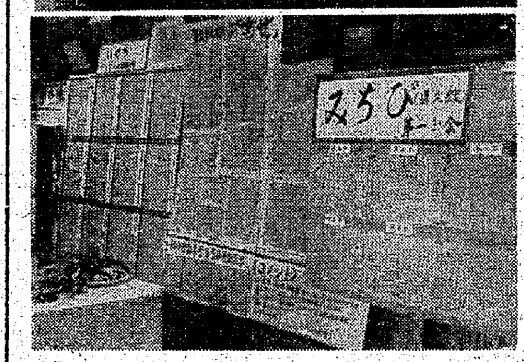
三川指導部 職場新聞まつり

6月29日、三川指導部では職場新聞まつりつが大にぎわい。組合員はぞくぞくつめかけ、会費200円で、主婦会三川の手づくり料理に舌つづみうちながら、茶わん酒をくみ交わし、職場新聞の発展をたしかめ合い、祝福し合った。今後への期待は大。





この日、各職場新聞（地域も）は、それぞれ割り当てられた場所で、気ままに展示したが、それらの一つひとつに努力が積み上げられてきた跡がしのばれ、見るものの心をゆすぶった。がんばれ、三川指導部の職場新聞。

10分会新聞の〝三川はぐるま〟の展示コーナー。

この日の三川指導部の玄関口。人びとが、あとからあとからやつてきて、なかは満員

いつまで放置するか

昇坑人車の混雑うちつづく

三川鉱

三川鉱で、日常の昇坑人車の混雑ぶりが問題化してからかなりの時が立つ。

これは同鉱の生産会議でも三川指導部から問題提起を行ない、事態を改善するよう要求しつづけてきたにもかかわらず、いまも改善は見られず、混雑はなおつづきっぱなし。

この現状については、三川指導部七分会新聞〝あせ〟が百号記念号（六月五日発行）で、抗議の思いをこめて次のように伝えた。

×

常一番の昇坑一番人車の混雑ぶりについては、すでに人車ダイヤ変更以来問題にしてきました。

生産会議でも出され、何回となく保安係長、企画係長に改善を求めてきましたが、今日にいたるまでいぜん解決をみていません。

なんとかしなければということは、会社も十分認めています。

いままでの対策では、人員調整、早昇坑者のチェック、保安担当者の人車整理などが行なわれてきましたが効果はなく、週に一～二回は、負傷人車輌に乗ったり、積残しさえ出ています。その混雑ぶりは、まるで負傷者がでたときのような状態です。

六月十四日と十六日など、積み残された人が出て、両日とも保安・企画の各係長に対策を迫ったところ、十七日には保安部からの人車乗車整理乗り出しとなり、他方採炭・掘進に残業者もなかったためゆったりと昇坑。

もともと、三川鉱の人車合理化はすでに車掌二名が一名になり、ダイヤ改正で各方人車が削減されました。

現在三交代の三番人車に常一番と一番人車との間に三十分の空白があり、残業、早や昇坑者が集中することになります。長時間労働の常習化自体も、重大問題です。

当面①残業人車の増発、②残業者乗車用の車輌指定――などを早急に実施すべきです。

×

以上が記事であるが、なお新聞〝あせ〟は、前後三回も事実を伝え改善方を要求したが、これからもそれが改善するまで要求しつづけると決意を語っている。

不公平税制の革変

減税総括会議に参加して

宮浦指導部　永野博利

六月十三～十四日、百五十四名の参加を得て（三六県評、一四単産）、減税裁判原告団会議が岐阜において開催されました。

安恒総評幹事、在日朝鮮人総連合会代表、伊藤弁護士の挨拶をうけ佐藤代議士（大蔵委員）の国会報告、岩井元総評事務局長の記念講演後「七五春闘における減税闘争について」の討議がなされました。

減税裁判闘争は栃木、大阪、長野、東京、北海道、福岡の六地裁における公判闘争で証人調べに応ずることになり、この機会に私達の主張を広く国民にアピールして国民的関心を呼び起すよう、全国的な意志統一と連携をはかりました。

所得税確定申告闘争については各県の取り組み状況が報告され、減税裁判闘争が起爆剤としての役割を果し、現在四十七都道府県で取り組まれています。

いままで確定申告などすることを知らなかったために、みすみす権利を放棄していた医療、雑損、住宅等諸控除を実際に還付させる

なかで税金に対する意識が高まってきていることは、政治的関心の高まりにもつながってきています。

今後不公平税制の変革を教宣し反独占の闘いを前進させ、春闘共闘の主要な柱とし、展望と意義を国民春闘の中で明確に位置づけ、諸闘争と結合して発展させなければなりません。

四山鉱で保安対策前進？

職場におけるねばり強いたたかいの成果として、六月二十四日四山指導部は鉱側と保安問題をめぐり交渉、鉱としての考え方をひき出した。

それは、ほぼ次の内容である。

――毎週日曜日、冷凍機・クーラーの手入れを実施する。

――掘進切羽が六百メートル進んだら、五百メートル地点に道中専用のクーラーを設置する。掘進切羽が九百メートル進んだら、風管内にエヤーファンを取りつける。

――六月二十七日より六十御添卸に、クーラー排水を噴霧する。

――西十一片払の払跡の熱気を遮断するため、エヤーカーテンを取りつけるなど。（四山指導部の〝保安闘争情報〟から）

COオルグ派遣でおねがい

今回次の日程で〝COオルグ〟を派遣することになりました。

COオルグ日程

全北海道労協＝七月十五～同月二十五日（宮浦指導部二人、三川指導部二人）

青森県労会議＝七月二十八～同月三十一日（三川指導部二人）

岩手県労連＝八月二～同月七日（三川指導部二人）

秋田県労会議＝七月二十八～八月四日（宮浦指導部二人）

山形県労評＝八月六～同月九日（宮浦指導部二人）

積極的な交流をお願いします。

手洗い場の水を出して下さい

宮浦鉱　四十五　卸下降　三片（払仕繰）と五片の休憩所に設置された洗い場は、不思議なことに、私達が手や顔、作業着を洗いたい時間の十二時以後は、ここ一カ月余り水が出なくなりました。

ごはんを食べるときは、手や顔を洗い、きれいにして食べるようにおそわってきております。

係員は水台車の水で洗ってはいけませんと注意されますが、失礼ながら水台車の水を少々使わせていただいています。私達は洗い場で、真黒に汚れた体を思いっきり洗いたいものですが。（宮浦七分会のつなぎから）

三池に行って本当に良かった

宮崎　山本クミ子

前略――

婦人集会の際は大変お世話になりまして、本当にありがとうございました。

お礼が遅くなって、誠に申しわけありません。

帰ってから三池のことを話しますと、皆良い家庭に泊めてもらったなあ、とうらやましがっていました。

私達も宮崎の参加者三名で、三池の報告集を出そうかということで、今準備にとりかかっているところです。ですが、文章を書くということはとても頭の痛いことです。

三池の方々は、自分たちの敵を知っておられることに感心しました。そして、主婦会の方々が、三池労組を信頼されていることにも感心しました。

私の職場はまだまだこれからだと思いましたし、私もできるだけ早く日本婦人会議に入りたいと思いました。

今少しずつですが、〝三池闘争と教育〟という本を読み始めました。集会の中で聞いたことが、もう一度自分の中でくり返し思い出されています。

私も三池の方々といっしょに、三池の闘いを広めることに努力したいと思います。結婚したら、家庭の中から闘える体制を築きたいと思いました。

それにはまず何よりも、自分達が労働者であり、そして私たちを苦しめているのは資本家階級であることを、キチンと認識しておく必要があると思います。今の私の職場の闘いは、そういう基本的な考え方が抜けているようです。

本当に三池に行って良かった、と思います。本当にありがとうございました。

いつかまたお伺いすることがあるかも知れませんので、その時はよろしくお願い致します。

それから婦人部長さん、メガネをかけられたおばさんにも、是非よろしくお伝言下さいませ。

×

山本さんのお住まいは、「宮崎県えびの市原田三三九五」です。ご健康でご活躍下さい。

山口さんから多額のカンパ

東京の山口高司さん（東京都世田谷区鎌田二―五―二）からは、また多額のカンパを寄せていただきました。いつもながらの連帯に感謝のほかはありません。

山口さんはお手紙を添えて下さっていましたが、今年の春闘について書いていられました。

「私のところでは、労資正常化とか、不況だとか、敵の攻撃は巧妙にかけられ、運輸労連に結集した仲間は、春闘で一五％のガイドラインを越えるたたかいになりませんでした。

やはりもっともっと学習して、資本主義の仕組みを学び、なぜ不況になったかを仲間に宣伝し、もっと強い力を結集しなければなりません」

どうかがんばってください。